

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
1	<p>・青葉山エリアの博物館周辺には豊かな自然環境が残っている。この地に通っているうちに、この自然環境を生きがいに行っている方々がいることがわかった。</p> <p>現在行われている博物館周辺の伐採により、生き物の生育環境が脅かされていることが見て取れる。現地を歩く方からも鳥類の営巣環境を不安視する声が多数聞かれる。交流人口拡大は重要であるが、対象地を住み家とする野生生物の環境への配慮に慎重を期すべきである。今一度、現地の環境に配慮した開発計画を検討してほしい。</p> <p>・青葉山エリアは、仙台市民の心のよりどころとなる大きな可能性を持っていると感じる。ここには、人の生活と野生の生活が幅広い接点を持ち、都市の生活では経験できない、自然との一体感を感じることができる大きな価値がある。</p> <p>WHO憲章では「健康（Well-being）」を「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます」と定義している。東日本大震災を乗り越えた仙台に、これからの10年で必要なものは市民一人ひとりのWell-beingではないかと考える。このビジョンがそのスタート地点になることを期待する。</p>	<p>現在、博物館周辺の東丸（三の丸）土塁において進めております除草や一部樹木の伐採は、令和2年度に策定した整備基本計画に基づく史跡整備（植生修景整備）として実施しているものです。仙台北城跡は、日本を代表する近世城郭として国史跡に指定されておりますが、植生の繁茂によって、本来、城郭らしさを感じる要素である石垣や土塁、平場などの地形がわかりにくい状態となっております。植生修景整備は、こういった課題を踏まえ史跡の価値を高めるために行っているものです。</p> <p>今回の整備事業につきましては、史跡仙台北城跡整備基本計画策定時に有識者会議やパブリックコメントでご意見等をいただくとともに、除草や伐採の範囲を一定にとどめるとともに、伐採本数を減らすため枝打ちの作業を取り入れ、周囲の安全にも支障となる枯死した樹木を伐採除去するなど自然環境に対する配慮を可能な限り行っております。このことは、仙台市広瀬川清流保全審議会などの関連審議会および関連団体へ事前の報告、説明を行っております。また、事業個所が宮城県指定鳥獣保護区特別保護地区内にあることから、宮城県担当部署とも協議の上進めております。</p> <p>整備基本計画では、仙台北城跡の一部である「国指定天然記念物青葉山」など植生保存区域を定めており、史跡として自然環境と調和した城郭らしい景観の実現を目指すこととしております。生息している野生生物と当該事業との関わりに関しましては、今後の維持管理の中で適宜注意を向けてまいります。</p>
2	<p>・子育て中の親と話をするとう「福島と山形は子育て施設が充実している」と言う。仙台には無料で遊べる施設が少ない。</p> <p>市体育館や利府町のグランディには幼児体育室などはあるが、狭くて古い印象を受ける。のびすくは、1歳前後の子は楽しめるが、それ以降の年齢には物足りない。</p> <p>・公園は、自分が子供のころ遊んでいた遊具がほとんどそのまま驚いた。家の周りを歩けば小さい公園はあるが、整備されず古いままだ。榴岡公園や市体育館の遊具など、年季が入っており子どもと使っても危ないと思うことがある。</p> <p>・青葉山エリアに、子供がわくわくする遊具、室内の赤ちゃんから小学生くらいの子供が楽しく遊べる遊び場、そのような子供も大人も行きたいと思える場所ができるとうれしい。</p>	<p>本市では、子育て情報サイト「せんだいのびすくナビ」の地図機能を通して、無料で遊べる施設など市内外の子どもの遊び場に関する情報発信を行っております。既存資源を活用しながら地域での自由な遊びを促す活動の支援を行うなど、今後も子どもの遊びの機会の充実に努めてまいります。</p> <p>また、公園の遊具につきましては、毎年度安全点検を実施しており、その結果を踏まえ、適宜修繕や更新を行っております。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
3	<p>「青葉山エリアの歴史」で、戦後の青葉山開拓地の問題と歴史が触れられていない。ここには開拓農民ら100名以上の家族が暮らしていた。彼らの協力によって大学が建設されているという歴史を留めてほしい。</p>	<p>年表に「昭和20（1945）年 青葉山地区が緊急開拓委託事業地区に指定（後に開拓者は地区外へ移転）」を追記します。</p>
4	<p>青葉山公園庭球場を残してほしい。 ここは60年以上の歴史を持っており、インターハイ・国体・東日本選手権・ねんりんピック等のソフトテニス競技が開催され、参加選手・監督・連盟関係者からは環境のすばらしさ（市内からのアクセスも良く、木陰のいっぱいあるテニスコート）で定評がある。 中間案には、既存の施設である青葉山公園庭球場の今後について触れられておらず、ソフトテニス関係者は存続について心配している。計画の中に位置づけて検討してほしい。</p>	<p>青葉山公園は、青葉山公園整備基本計画に基づき、引き続き整備を進めてまいります。庭球場存続のご要望もありますことから、その取扱いについては、スポーツ振興等の観点を踏まえ、慎重な検討を要するものと認識しております。今後、自然散策広場や中島池等について段階的に整備を進めてまいりますことから、当面の間、現状のままお使いいただくことになると考えております。</p>
5	<p>青葉山公園仙臺緑彩館が含まれるエリアの中で「青葉山公園庭球場」も現在仙台市民のみならず宮城県民、東北六県のソフトテニス競技の中心地として現在も活用されている。 中間案の中に、このスポーツ施設の記載が見当たらず「文化・スポーツ振興」の大きな役割を果たしている庭球場の今後についてどのように利用され活用されて行くのか不明の状況だ。また、どのように整備を進めて利用していくのかもはっきりと記載はない。 60年以上の歴史を持ち、インターハイ・国体・東日本選手権・ねんりんピック等のソフトテニス競技が開催され、参加選手・監督・連盟関係者からは環境の素晴らしさ（市内からのアクセスも良く自然に恵まれたコート）で定評がある。ソフトテニス関係者は今まで通り文化・スポーツ施設の根幹部分として活用・存続されるか心配している。今後の計画の中に、更に活用すべき施設として盛り込まれ、活用・検討してほしい。</p>	<p>青葉山公園は、青葉山公園整備基本計画に基づき、引き続き整備を進めてまいります。庭球場存続のご要望もありますことから、その取扱いについては、スポーツ振興等の観点を踏まえ、慎重な検討を要するものと認識しております。今後、自然散策広場や中島池等について段階的に整備を進めてまいりますことから、当面の間、現状のままお使いいただくことになると考えております。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
6	<p>政宗公は酒造りの職人を招いて城内で酒造りをさせていた。全国的に見ても城内での酒造りは稀有なことという。初代又五郎から12代まで「御酒屋」として藩で消費する酒を造っていた。この政宗公以来の酒の伝統を生かさない手はない。</p> <p>「みちのく酒の駅 御酒屋又五郎」を作り、東北全県の醸造酒を一堂に集めて展示・販売する。並行して特産品も販売する。</p> <p>青葉城周辺が整備され、もし岩手・宮城にリニアコライダーが設置されれば、世界中から人々が集まる可能性がある。そこで観光の目玉として、お酒屋又五郎の復活させれば仙台四郎以上のインパクトを与えると思う。</p>	<p>いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>
7	<p>仙台市の主な観光・交流・文化施設が集積するエリアを「青葉山エリア」と名付けゾーニングしたことに面白みと新しさを感じる。「青葉山エリア」で繰返し発信を続ければ、名前もコンセプトも次第に定着し、名前を聞いただけで「学・遊・楽」の施設が集積する青葉山とそのふもとの地図を思い浮かべることができるようになる。</p> <p>何かをゼロから生み出す新しさではなく既存の価値の再編による新しさがある。ビジョン中間案の内容も将来像が見えて、実現には幾つものハードルを越えていくのだと思うが、大きな夢や希望を抱くことができる。</p> <p>その上で、ビジョンの中に、五色沼やフィギュアスケート発祥の地の情報や、国際センター駅前の五輪金メダル記念モニュメントがないことに違和感を覚える。ビジョンに、フィギュアスケートゆかりの場所を通じた青葉山エリアの魅力発信を加えてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィギュアスケートと青葉山エリア ビジョンの中で「五色沼、広瀬川大橋下、フィギュアスケート発祥の地碑、モニュメント、青葉の風テラス」をクローズアップし、仙台市の魅力として訴えていくことは交流人口の拡大に着実な効果をもたらすと考える。 ・青葉山エリア内他施設との連携 瑞鳳殿、仙台市博物館、音楽ホールにおいてフィギュアスケートに関連した催事等の開催を提案する。 ・青葉山エリアに常設のアイスリンクを作ってほしい。 	<p>五色沼がフィギュアスケート発祥の地とされていることについては、青葉山エリアの大きな魅力であると認識しており、本ビジョンに記載することとしております（中間案6ページ）。</p> <p>新たな施設整備の実現に向けましては、施設のあり方のみならず、指導者の確保など検討すべき事項が多くあるものと考えており、フィギュアスケート関係者をはじめ様々な方々の意見を伺いながら民間活力の導入も視野に入れ、調査・検討を進めてまいります。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
8	<p>仙台の町は、伊達400年の歴史に裏付けられた町であり、他地域との差別化を図るためには、これを最大の観光資源としてとらえるべきである。例えば青葉城址には、かつて壮大な「大広間」があり、その北側には「能舞台」があった。伊達家は、能楽に特に力を入れたと言われており、「能舞台」はその象徴でもある。伊達藩政時代からの歴史に裏付けられた文化都市仙台のシンボルとして、是非、能楽堂の建設を推進すべきである。</p> <p>このような歴史的施設の整備は、単に能愛好者のためだけではなく、市の「基本計画」の「チャレンジプロジェクト」にも掲げられている「文化芸術や歴史などに親しめる多彩な学びの機会があふれる環境」を実現するためにも重要である。「日本の文化」を身近に感じられることは、子供に対する情操教育の面に留まらず、日本文化の継承・普及、海外への発信を可能とし、ひいては、国際会議の誘致や海外からのリバウンド需要の拡大にも寄与するものと考えられる。</p> <p>本ビジョンの検討を通じて、能楽堂建設が推進され、ひいては、その活用により、文化都市仙台実現への一翼となるよう、検討事項に加えていただきたい。</p>	<p>能楽をはじめとする「日本の文化」を身近に感じることのできる環境を充実させることは、我が国固有の歴史や精神への学びを深め、まちの魅力創出につながる重要な取り組みであると考えており、本市の文化振興施策において検討を行ってまいります。</p>
9	<p>青葉山公園のホタルが生息するエリアをぜひ守ってほしい。</p> <p>毎年、初夏になると、青葉山公園ではゲンジボタルが多く見られ、多くの方が青葉山公園に来て、ホタル観賞を楽しんでいる。「杜の都」仙台の、表面的だけではない、自然との「共生」の形を見た気がした。</p> <p>青葉山公園は、今現在ですらホタルが生息できる環境として限界の状況にあるのではないかと感じている。年々ホタルの数も減ってきているように思う。</p> <p>自然を取り込んだ都市としての「持続的な発展」を実現しようとするならば、今かろうじて残されている仙台の貴重な自然を徹底的に守り、50年後、100年後先も、残そうと努めることだ。新しい施設等を作って街に人を呼び込むことも重要だが、それ以上に、他にはない仙台という都市の魅力が仙台市民が誇りに思い、代々大切に、その魅力を守っていける環境を作っていくことが、ひいては内外に仙台の唯一無二の魅力を発信していくことにもつながり、より「持続的な発展」につながるのではないかと。</p>	<p>青葉山等の豊かな自然は、本市の魅力の一つであり、青葉山公園においても、新たに公園の拠点施設として整備する仙臺緑彩館を中心に、来園される多くの方々に、この魅力を発信していくこととしております。</p> <p>今後整備を予定している竜ノ口地区（青葉山庭球場周辺）におきましては、ホタルを育成している市民団体や有識者等から意見等をいただきながら、持続的な発展につながるような整備について、検討を進めてまいります。</p>
10	<p>仙台城跡と瑞鳳殿は少々離れているが、その間は経ヶ峯や広瀬川など青葉山・仙台らしい風景を臨むことができ、歩く楽しみもある場所である。</p> <p>そのため、瑞鳳殿も併せて訪れる人も意識し、歩行者が快適に楽しく散策できるよう、公共空間（道路や公園等）の整備や、情報発信を進めていただきたい。</p>	<p>本ビジョンでは、瑞鳳殿周辺も「青葉山エリア」とし、エリア全体の将来像や取り組みの方向性をお示しすることとしております。</p> <p>快適な歩行環境や公共空間の利活用、情報発信等いただいたご意見については、ビジョンの実現に向けた重要な視点と認識しており、今後の取り組みを進めるうえで参考とさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
11	<p>・「3 青葉山エリアの歴史」の文と7ページの年表を詳細に読むと、文と年表の間に整合性が無いので、どのような内容をどちらに掲載するか判断基準を考えた上で作成し直すべきである。文中に記載されている内容は、重要な出来事であるはずであり、年表に記載するのが妥当である。</p> <p>・年表中に仙台第二中学校の移転が記載されているが、これはどのような意味があるのか不明であり、削除すべきである。もし、学都と青葉山エリアの関係で、記載されているとするならば、それは理解できない。学校施設が何らかの政策的な意図があって集まったわけではなく、第二中学校がその端緒やきっかけになったわけでもない。学校施設の立地は、土地が広いとか、国や公共団体が土地を所有しているとか、その土地がたまたま空いているとかの理由で決まっていることが多い。青葉山エリアについても偶然の積み重ねで今の状態になっている。それに対して無理やり意味を持たせようとしているとすれば、それは歴史解釈の捏造と言えるのではないか。</p>	<p>中間案7ページの年表は、「3 青葉山エリアの歴史」本文を補完するものとしてお示ししております。したがって、一部「青葉山エリアの歴史」に記載の事項を再掲しているほか、他の章で触れている事項等についても記載することとしております。</p> <p>以下については、本ビジョン全般において触れていないことから、年表中から削除することとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (1689) 年 松尾芭蕉、亀岡八幡宮を参詣 ・ 明治42 (1909) 年 観光案内書『仙台松島塩釜遊覧の栞』にて「森の都」と記載 ・ 昭和3 (1928) 年 宮城県仙台第二中学校（現在の仙台第二高等学校）が川内に移転
12	<p>以前より、仙台には歴史や文化、観光、学術、芸術、スポーツ、自然など魅力的なコンテンツが数多く存在するのに、それぞれが点在していて、それらを包括的に捉え構成したストーリーや見せ方、伝え方が必要なのではと感じていた。このたびビジョンが策定され、このエリアを核として仙台が新たな段階へと発展していくことを期待し、一市民としてそこに積極的に参加していこうという思いだ。</p> <p>・より強力な広報戦略について 仙台人は地元愛が強いのに自分のことを必要以上に話したがる、PR下手というようなことを聞いたことがある。情報発信手段として各種SNSを活用したデジタル広報戦略は今後ますます重要になり、さらなる仙台ファンづくりのために若い感覚で動かしてもらおう中核的専門チームが必要と思われる。国外に向けての発信という点では、外国人のライターやインフルエンサーを積極的にイベントに招待するなどの活動もより重要になると思う。</p> <p>・都心部との連携について 「青葉山エリアと都心をつなぐ場の賑わい創出」に注目している。西公園は、以前は市民プール、天文台や図書館があり、春には植木市、夏には盆踊り大会が開催されるなど非常に賑わっていた印象だ。老若男女、国籍問わず、車椅子でも人々が笑顔で参加し交流できる街づくりを期待する。</p> <p>・全体について 官民学が一体となり、そこに市民を巻き込んだ街づくりが進んでいくことを願う。</p>	<p>エリアに関する広報や都心部との連携については、いずれも重要なことと認識しており、本ビジョンにおいても取り組みの方向性としてお示ししております。</p> <p>また、行政、事業者、大学等の様々な主体が連携し、一体となってまちづくりを進めることについても、本ビジョンにも盛り込むこととしております（中間案30ページ）。</p> <p>いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
13	<p>民間の力で飲食店が出店しにくい立地環境かと思われるが、青葉山周辺で食の楽しみがあることが、多様な人が長時間楽しめるかキーポイントになるように感じた。</p> <p>ハード整備に限界があるとしても、その分、東北の食の魅力が感じられる定期的なマルシェ・市（いち）を積極的に仕掛けるなど、食の楽しみが定着する取り組みを期待したい。</p>	<p>市民アンケートの結果などから、エリアにおいては「飲食に関すること」の期待度が高いことを認識しております。</p> <p>いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・建物・色・表示板等、エリアの今後のビジュアル統一を図ることを提案したい。 ・交通アクセスについて、青葉山回遊の魅力を生む乗継、乗換の利便性を創出することを提案する。エリアを周遊するミニバスのようなものが必要になると思う。また、広瀬川の浅瀬に沈下橋を作り対岸への回遊性を広げる仕掛けづくりを提案する。 ・エリアの飲食の魅力が期待される。今後の音楽ホールや施設を訪れた後の余韻づくりに欠かせない。それに伴い利用時間の延長、デザイン性のある照明効果が望まれる。 ・「緑化フェア」の跡地利用は慎重に。新たな活用に変えながら、その一方で、馬場のあったところを違う素材の路にする、既のあった場所は屋根付きBIKE置き場や四阿、乗り換えの建物に変える等、かつての面影を形として残し継承させることを提案する。 ・テニスコート奥の自然林は四季折々の風情が残るのでそのまま手つかずにあえて残すことを提案する。 ・植物園を含む本丸、二の丸、三の丸、大きな仙台城の概観と町割り、若林城が分かるジオラマ模型もしくはパンフレットの作成を提案する。 ・「るーぷるバス」のアナウンスを仙台ふらんの意見を入れる等して、多角的にもう一工夫することを提案する。 ・石垣修理のため道路が閉鎖されている今だからこそ、長沼からの途上路整備の早急化を提する。詳しい説明案内だけでも早急に。 ・七夕花火打ちあげや記念日に合わせて青葉山の崖にプロジェクションマッピングで御懸造再現を提案する。 	<p>青葉山エリアの魅力の向上にあたっては、エリア内や都心とエリアの回遊性の向上、また、レストランやカフェなどの飲食・休憩スペースの充実は重要なものと考えております。</p> <p>「緑化フェア」会場の跡地となる追廻地区におきましては、青葉山公園整備基本計画に基づいた整備を進めることとしております。ご提案の「かつての面影を形として残し継承させること」につきましては、仙臺緑彩館での展示や指定管理者が中心となって実施するイベント等により伝えていけるよう努めてまいります。</p> <p>テニスコート奥の自然林の区域については、青葉山公園整備基本計画において豊かな自然を体感いただける自然散策ゾーンと位置付け、整備を進めることとしております。整備にあたりましては、この場で活動されている市民団体や有識者等から意見をいただきながら慎重に検討してまいります。</p> <p>「るーぷる仙台」の車内アナウンスにつきましては、新たな開館施設などの情報を盛り込むほか、関係施設とも意見交換を行いながら適宜修正を行っております。ご指摘の媒体を含め、様々な情報を踏まえながら、検討してまいります。</p> <p>長沼からの登城路（巽門登城路）整備につきましては、史跡仙台城跡整備基本計画において、発掘調査成果に基づき進めることとしております。登城路跡の発掘調査は、現在、災害復旧事業を優先するため休止しておりますが、復旧完了後に再開する予定です。また、説明案内につきましては、発掘調査の進展に合わせて、明治時代以降に改変を受けている登城路の本来の姿をお伝えできるよう、適宜、現地での表示等を進めてまいります。</p> <p>プロジェクションマッピングにつきましては、今回いただいた内容も含め、様々なご意見等も踏まえながら、実現の可能性等について検討してまいります。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
15	<p>・音楽ホールの建設により、週に数日、1～2千人の人の来場があれば、会場周辺や地下鉄が混み合うのは必至で、そのことがエリア全体の利便性や文教地区の静かな魅力を損なってしまうのではないかと憂慮する。さらに、仙台市博物館や宮城県美術館で、大規模集客を想定した人気展覧会と時期が重なれば、地区全体での混雑は避けられないと思う。</p> <p>青葉山エリアに観光客を誘致し、集客施設を集約させるプランとなっていますが、オーバーツーリズムの問題が全国各地で発生しているなかで、混雑の面から再検討する必要があるのではないかと考える。</p> <p>・駐車場がなくなることで、車の混雑が予想される。また、地下鉄東西線の輸送能力が南北線に比べて低いことは以前から指摘されており、東西線を利用している東北大学、宮城教育大学の学生の通学にも影響が出てしまうのではないかと。具体的な解決策はあるのか。</p> <p>・大手門復元が必要なのか疑問である。この建設にかかる費用を人材育成やガイドツアーなどのソフト事業に長期的に充当したほうが、より豊かな観光プランを提供できるのではないかと。また、八木山へ抜ける道が迂回路になることによる交通渋滞も心配だ。</p> <p>・「エリア内の魅力を高める施設等の立地促進」として、「エリアの魅力を生かした レストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備」と書かれているが、出店できるエリアは限られているなかで、集客した人たちに十分な飲食を提供できる程度の店数を集めるのか懸念される。音楽ホールの懇話会で、キッチンカー出店を促すという案も出ていたが、本格的な飲食は望めない。</p> <p>・青葉山エリアから飲食のために移動するとすれば地下鉄で駅前に行くのが一番簡単で、一番町には流れるとは考えづらい。知事が県民会館跡地の隣スペースも確保して仙台市に利用を促すような発言もしている中、音楽ホールをこの青葉山エリアの計画のまま進めることは、ホールができることで周辺地域に及ぶはずだった経済的恩恵を無駄にしてしまう。</p>	<p>イベント開催時の交通渋滞や、高低差があることなどから移動手段に一定の制約があることについては認識しており、本ビジョンにおいては、エリアにおける課題としてあげております。今後エリアの関係機関、団体等との連携のもと、検討を進めてまいります。</p> <p>音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合施設においては、一定程度の駐車場を設ける方向で検討しておりますが、地下鉄をはじめとする公共交通機関の利用の促進が重要と認識しております。地下鉄駅や近隣施設とイベント開催情報を共有し、主催者や来場者に適宜注意喚起を行っていくなど、渋滞緩和に向けた取組みについて検討してまいります。</p> <p>なお、複合施設での大規模な催事は、平日夜や休日の開催が中心になると想定され、近隣の学校等に地下鉄を利用して通学される学生への影響は限定的なものを見込んでおります。</p> <p>大手門につきましては、史跡仙台城跡整備基本計画に基づき、現在復元に必要な各種調査を実施しておりますが、財源の確保や将来的な復元に伴う市道の取扱いなどの課題もございますので、地域住民の皆さまのご意見も伺いながら引き続き関係機関等との調整を進めたいと考えております。</p> <p>なお、NPO法人仙台城ガイドボランティア会と連携し仙台城跡ガイドツアー&石垣クリーン大作戦等の取組みも実施しているところです。</p> <p>市民アンケートの結果などから、エリアにおいては「飲食に関すること」の期待度が高いことを認識しております。本ビジョンにおいては、取組みの方向性の一つとして、エリア内の魅力を高める施設等の立地促進を盛り込むとともに、飲食面についても補完できるよう、都心との回遊性の向上についても重要な要素として、お示しすることとしております。複合施設におきましては、キッチンカーの出店の他、複合施設内にもカフェ・レストランを整備する方向で検討しております。</p> <p>県民会館跡地への音楽ホール整備の可能性についてもこれまで検討してまいりましたが、隣接地を含めたとしても敷地面積が十分ではなく、本市が目指す音楽ホールの整備は困難であると判断したところです。店舗・飲食店との連携などを通じ、都心部の活性化にも貢献する施設を目指してまいります。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
16	<p>・市民が青葉山に求めているものは「観光」であり「自然の中で子供から大人まで老若男女が安らげる場所（公園整備）」である。特に、仙台のウイークポイントである「観光」を、歴史や学都と結びつけ、青葉山全体を1つのテーマパークのように再構築し、胸を張れる「観光地」にしてほしいと願っている市民は多いのではないかと。</p> <p>・青葉山エリアに、新音楽ホールは本当に必要だったのか。近くには「川内萩ホール」があり、規模が違うとは言え、なぜ青葉山に音楽ホールを集中させてしまうのか。</p> <p>・文化鑑賞には、そこに向かうワクワク感と、終演後の余韻を楽しむ空間が必要だ。青葉山にも飲食店等を増やすと、「まちなか」への回遊性は消えてしまう。多くの人を呼び込むためには、「まちなか」と競合しない飲食施設の増設は必要だと思うが、その辺のバランス等も安易に考えすぎていると感じる。このビジョンが10年後を目指しているのであれば、新音楽ホールについてはあらゆる面から再検討を願う。</p> <p>・青葉山エリアは、仙台駅からそう遠くなく「立地」はいいのかもしれないが、老若男女、市外及び県外からの人たちが本当に訪れやすい交通体制か。仙台市は各地で「街づくり」を推進しているが、各部署で交通に関する考え方が統一されていないように思う。「定禅寺通再整備方針」では、車線を減らす計画が出され、地元のほとんどは「まさか」と不安・疑念を抱いている。もし定禅寺通の車線が減れば、広瀬通がますます渋滞してしまう事は目に見えているので、青葉山エリアとのアクセスにも影響が出てくると思う。青葉山の魅力が上がり、県外からもたくさん来てほしいのに、西道路の出入口が混雑しているのは、せっかくの再構築が台無しだ。まずは仙台市内の交通を見直し、青葉山に人が集まりやすいようにするのが先決ではないか。</p>	<p>青葉山周辺は、仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地であり、本ビジョンでは、将来像の一つに「市民や来訪者を惹きつけ、仙台の観光交流をリードする」を掲げることとしております。この将来像の実現に向け、エリア関係機関、団体等との連携のもと、取り組みを進めてまいります。</p> <p>音楽ホールは大ホールのみならず、文化芸術の総合拠点として、小ホール、リハーサル室、大小の練習室群、ワークショップルームなど、様々な諸室を備えるほか、気軽に憩ったり、多様な催事を楽しんだりできる交流ロビーや屋外広場を整備し、青葉山エリアの魅力向上につながる施設を目指しています。川内萩ホールはコンサートホールとして一般への貸出も行っている一方で、大学施設や国際会議場としての位置付けもあり、両施設に求められる役割は異なるものと考えております。</p> <p>また、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合施設内にはカフェ・レストランを整備する方向で検討しているところですが、同時に都心部の店舗・飲食店との連携により、回遊性の向上も図る必要があるものと認識しております。青葉山エリアの豊かな自然など周辺環境を生かし、歩く過程を楽しめるような環境づくり、仕掛けづくりを行うことで、文化鑑賞の前後に青葉山エリアでも都心部でも様々な楽しみ方ができる施設を目指してまいります。</p> <p>「定禅寺通再整備方針（中間案）」による定禅寺通の車線の削減については、車線削減時の交通量推計結果や大規模社会実験時の交通量調査結果から、広瀬通や北四番丁通などの周辺道路も含め、自動車交通量に大きな影響は生じない見込みであると考えており、交通工学の専門家の助言や交通管理者である宮城県警察との協議等をふまえて車線削減の検討を行っております。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取り組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
17	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉山エリアビジョンではなく、西公園、仙台城址、広瀬川、青葉通り、定禅寺通ビジョンにした方が良い ・エリア内の企画について、もっと誰が何をするのか記載があった方が現実的である。 ・定禅寺通りからも広瀬川対岸に渡りたい。 ・仙台市の財政状況からはいつ実現するのか、10年後を見据えてと記載があるが、本当に可能か疑問である。 ・民間事業者に任せても良いと思う。 	<p>ビジョンのタイトルについては、有識者による検討懇話会での議論を重ねて定めたものであり、原案のとおりとさせていただきます。</p> <p>また、本ビジョンは、概ね10年後を見据え、将来像やその実現に向けた取り組みの方向性を示すものです。具体の取り組みについては、民間事業者との連携のもとに進めることが重要であり、その考え方を本ビジョンにも盛り込むこととしております（中間案30ページ）。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートの発祥の地といわれるこの地だからこそ、試合が可能なスケート場（市民も手軽に利用可能な）が存在するのは意味があると思う。 	<p>新たな施設整備の実現に向けましては、施設のあり方のみならず、指導者の確保など検討すべき事項が多くあるものと考えており、フィギュアスケート関係者をはじめ様々な方々の意見を伺いながら民間活力の導入も視野に入れ、調査・検討を進めてまいります。</p>
19	<p>図面にはテニスコートが残っているが、主要な施設には上がっていない。このコートは市内で一番コートの数がある。大会や個人の利用もあるので、是非残して欲しい。ただ残すだけでなく、トイレ、駐車場、コート等の施設の整備も願います。</p>	<p>青葉山公園は、青葉山公園整備基本計画に基づき、引き続き整備を進めてまいります。庭球場存続のご要望もありますことから、その取扱いについては、スポーツ振興等の観点を踏まえ、慎重な検討を要するものと認識しております。今後、自然散策広場や中島池等について段階的に整備を進めてまいりますことから、当面の間、現状のままお使いいただくことになると考えております。</p> <p>この他、いただいたご意見は、公園整備を進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
20	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム・懇話会等、いろいろと会合を重ねて検討しているが、これからの未来を考えていく上で、早急に決めることなく、じっくりと取り組んでほしい。 ・自然と自然景観を損なわず、なるべく現状のまま残してほしい。 ・これからの「まちづくり」を考え、取り組んでいくときに、必ず「ソフト」・「ハード」のことが論議されますが、出来れば「ソフト」を重きとして進めることを願う。 	<p>本ビジョンの検討にあたっては、市民アンケートの実施やシンポジウムの開催、有識者による検討懇話会での議論のほか、エリアの関係機関、経済団体等にご意見を伺いながら進めてまいりました。本ビジョンは、概ね10年後を見据え、将来像やその実現に向けた取り組みの方向性を示すものです。将来像の実現に向けた具体の取り組みにおいても、事業者や大学等関係機関との連携のもと進めてまいります。</p> <p>天然記念物青葉山、広瀬川等の豊かな自然は、エリアの重要な特性であり価値といえます。本ビジョンでは、将来像の一つに「杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ」を掲げ、こうした自然に親しみ、大切にすることを示すこととしております。</p> <p>当エリアにおいても、ハード・ソフト両方の取り組みが重要と認識しており、本ビジョンにおける取り組みの方向性にも両方の要素を盛り込むこととしております。</p>
21	<ul style="list-style-type: none"> ・現代では自然環境はできるだけ保ち、余分な構造物を増やさない事が一番の得策だと考える。余分でない構造物とは、アンケートにも多い、来訪時に地域ガイド、飲食、トイレ利用ができる場所である。追廻地区に施設ができれば、その役目を果たせるのだろうが、そのサービス提供時間帯についてはご一考を願いたい。 ・以前、青葉山地区を訪れた際、夕方の暗い時間帯は真っ暗の坂道等が怖くて、国際センター駅にたどり着くのも大変だった。安全のためにも、足元照明（風情のあるデザインもセールスポイントになるはず）の設置をお願いしたい。また、公共の施設が多いため、夕方5時過ぎのサービスが受けられないのも困る。 ・函館山のように夜の眺めを売りにしたり、蛍の観測会をしたり、環境破壊の余分な建築物を増やさなくとも、新たな時間帯や提供サービスを掘り起こせば、新たな楽しみ方が増えると思う。 ・自家用車、ループバス、地下鉄、自転車、バイク、徒歩、車いす等を考えると、駐車場、駐輪場、混雑緩和等、盛況時の対策も必要と思う。 	<p>足元照明につきましては、安全面など周辺状況を勘案し、設置の可否について検討してまいります。</p> <p>また、市民アンケート結果から、移動環境については、一定の課題があるものと認識しており、本ビジョンの取り組みの方向性においては、「国際センター駅を基点としたアクセスの向上」や「交通渋滞への対応」等を盛り込むこととしております。</p> <p>この他、いただいたご意見は今後、本ビジョンに関連する取組みを進めるうえで参考にさせていただきます。</p>

番号	ご意見の概要	仙台市の考え方
22	<p>・青葉山川内エリアは天然記念物の青葉山、中流域の広瀬川に代表されるように仙台にとってかけがえのない原生的な自然を誇る地区である。整備に際しては、にぎわいや集客を優先することで、変化に富んだ地形や保たれている沢筋などが決して損なわれないよう細心の注意を払ってほしい。</p> <p>・特に植栽計画については、潜在自然植生を生かして樹種選択や庭園計画を行っていただきたい。過去の調査を活かし、デザイン、建築だけでなく、植物生態学、動物生態学の研究者の見地を集め、一帯の森を未来へ手渡せる計画を立ててほしい。</p>	<p>天然記念物青葉山、広瀬川等豊かな自然は、エリアの重要な特性であり価値といえます。本ビジョンでは、将来像の一つに「杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ」を掲げ、こうした自然に親しみ、大切にすることをお示しすることとしております。</p> <p>仙台城跡の整備に関しましては、史跡仙台城跡整備基本計画において、史跡地内にある天然記念物青葉山の範囲や竜の口川の崖面などを植生保存区域と定め、その景観を保全することとしております。</p>